

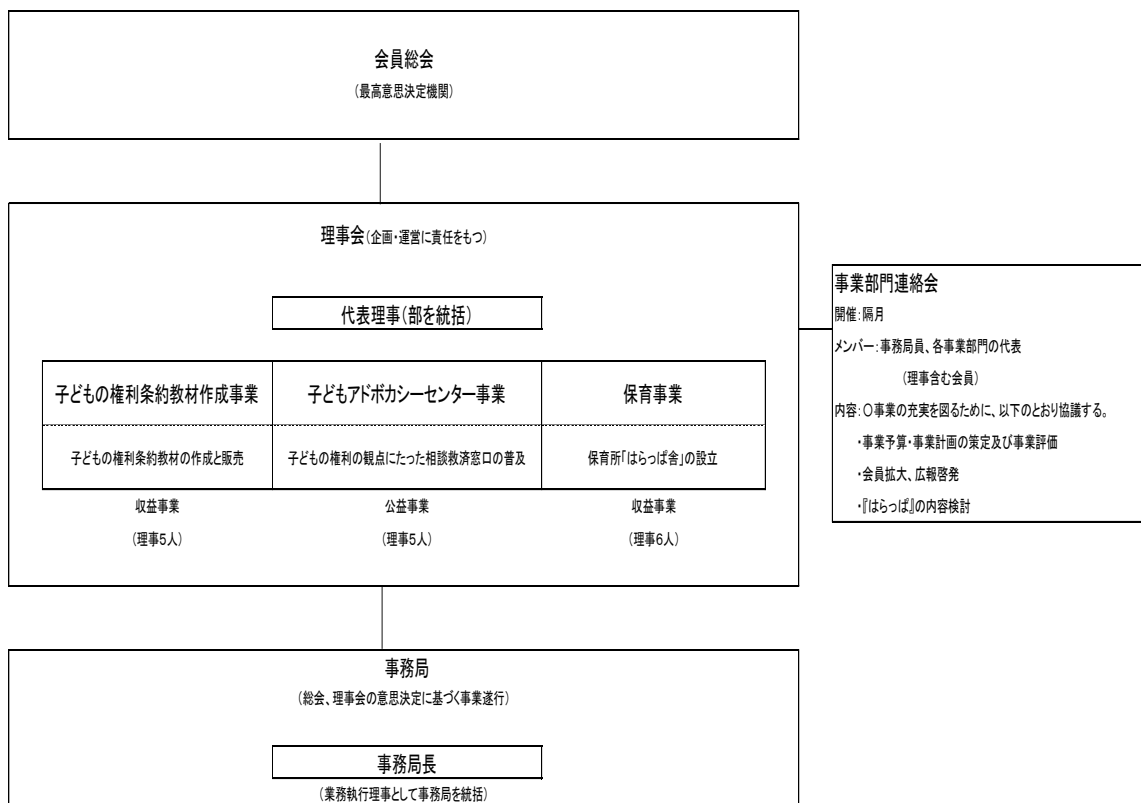
公益社団法人子ども情報研究センター 2014年度事業報告

I 組織・運営

1. 公益社団法人への移行

公益法人制度改変により、2014年3月19日公益社団法人の認定、4月1日法人設立登記

(1) 組織



(2) 事業の構成

公益社団法人への移行にあたり、2014年度より子ども情報研究センターの事業は次の通り構成。

なお、事業実施の目的は、子どもの権利（「児童の権利に関する条約」に規定する子どもの権利）に関する調査研究、各種支援、広報等をおこなうことにより、子どもの権利の擁護、子どもの最善の利益に寄与することとする。

1. 子どもの権利に関する調査研究

- (1) 独立子どもアドボカシー研究プロジェクト
- (2) 「子ども家庭相談室相談員研修プログラム」開発プロジェクト

2. 子ども及び家庭のアドボカシー

- (1) ファミリー子育て何でもダイヤル
- (2) チャイルドラインOSAKA
- (3) 子ども家庭相談室
- (4) 大阪府教育委員会「24時間電話相談」に係る夜間・休日等の教育相談
- (5) 大阪市地域子育て支援拠点事業（ひろば型）
- (6) 大阪市こども相談センター不登校児童通所事業
- (7) 大阪府子ども家庭サポーター協議会
- (8) 講座付き保育体験事業

3. 子どもの参加の促進

- (1) ティーンズ・メッセージfromはらっぱ編集
- (2) 「きみの声で楽校をつくろう！」プロジェクト
- (3) 子どもの権利条約フォーラムへの参加

4. 子どもの権利に関する図書の編集

- (1) 月刊『はらっぱ』編集

- (2) 書籍の編集・発行
- (3) 年次報告書編集

5. 子どもの権利に関する研修

- (1) 人権保育教育連続講座
- (2) 共同子育て連絡会
- (3) テーマ別研究部会
- (4) 大阪市子ども家庭支援員研修
- (5) 子どもとあそびのネットワーク
- (6) 自然教室
- (7) 大阪発保育・子育てを考える集い
- (8) 子ども支援学研究会
- (9) 研修講座の企画運営
- (10) その他

6. 子どもの権利に関する国際交流

2. 第1回定時会員総会

日 時：2014年5月18日(日) 10:30～12:00

場 所：HRCビル5階ホール

出席者：42／表決状提出：149 計191

*会員総数（個人会員291、団体会員79、計370）の過半数出席

議 案：2013年度事業報告/決算報告/2014年度修正予算/役員の変更

3. 会員の拡大と広報の充実

(1) 会員の拡大

WEB上での会員入会を呼びかけ、主催講座や関連団体の講座等で入会促進を試みたが、目標達成できなかった。

・2014年3月末

個人会員 288/団体会員 85/賛助会員 175

・2015年3月末

個人会員 291/団体会員 80/賛助会員 185

会員種別	2014年度目標	2014年度新入会者数
個人正会員	30	17
賛助会員	40	14

(2) 広報の充実

公益法人移行にともない、ホームページをリニューアルした。

ホームページおよびブログ、Facebookの更新、充実をはかり、情報発信をおこなった。

<http://www.kojoken.jp/>

4. 理事会

開催日と内容は以下のとおり

・第1回 4/21 (金) 19:00～21:00

2013年度活動報告、決算(案)、役員の変更、2014年度予算について、理事の役割について2014年度理事会の開催予定

・第2回 5/9 (金) 19:00～21:00

第1回定時会員総会について、法人の組織強化について、保育担い手養成、派遣事業(保育部ももぐみ)について、新規事業について

・第3回 6/23 (月) 19:00～21:20

職務執行の報告、法人の組織強化について、新規事業の進捗について

・第4回 8/29 (金) 15:00～18:15

資金調達が必要な事業について、「寄附」について

・第5回 10/27 (月) 19:00～21:00

職務執行の報告、2014年度上半期(4月～9月)の決算報告、保育事業について、「子どもの権利条約フォーラム2015 in 大阪」開催、理事の辞任について

・第6回 1/26 (月) 19:00～21:00

職務執行の報告、保育事業について、「はらっぱ積立」について、総会(2015年5月開催)の日程、記念企画について

・第7回 3/11 (水) 18:30～21:00

総会(2015年5月開催)の日程、記念企画について、保育事業について、2015年度事業計画案、収支予算案について、2014年度受託の事業(事業展開の独自性)について、月刊『はらっぱ』の今後について

・第8回 3/23 (月) 書面による決議

2015年度収支予算案の件

5. 事業部門連絡会

各事業部門の充実を図るため、部門担当者と事務局担当者が集まり、事業の現状と課題、『はらっぱ』の内容について協議。

隔月第3月曜日に開催（4/21, 6/16, 8/18, 10/20, 12/15, 2/16, 3/16 全7回）。

6. 「はらっぱ基金」

子どもの権利擁護事業のさらなる展開をめざして、2007年度「社団法人子ども情報研究センター設立30周年」に、有志呼びかけ人によって創設。有志の支援活動として発足し、社団法人子ども情報研究センターに資金が必要な際に元本も含めて寄付（支援）するといった趣旨から、法人会計とは別の任意団体として、別口座にて法人事務局でお預かりしてきた。2014年度からは、呼びかけ人にご承認いただき、今後は公益事業に使用するものとし、管理を法人理事会に移行し、特定資産「はらっぱ事業積立資金」とした。

II 公益目的事業

1. 子どもの権利に関する調査研究

(1) 独立子どもアドボカシー研究プロジェクト

【概要】

児童福祉施設への「独立子どもアドボカイト*」導入ニーズと課題を検討し、「独立子どもアドボカイト」の養成、ならびに派遣システムの構築をめざす。

*「独立子どもアドボカイト」とは、イギリス全土で発展してきた子どもの権利擁護システムのひとつ。子どもアドボカシーとは「子どもの利益のために、子どもを支援すること、または子どもの代弁をすること」と定義される。これは、子どもの生活にかかわるおとなにより自然に行われることであり、また、子どもにかかわる専門職の基本的技術だと言える。こうした一般的な子どもアドボカシーとは別に、「独立子どもアドボカイト」システムがある。子どもにかかわる専門職が子どもの最善の利益の判断をする場合、子どもの意見や願いを聴くことに困難を感じる場合も多く、子ども関連機関からは独立して、専ら子どもの代弁をおこなう「独立子どもアドボカイト」システムがつくられてきた。

【2014年度の実施事業】

・研究会の実施 5/18(日), 9/28(日), 11/16(日), 2/21(土)

児童福祉施設における子どもの権利擁護の実態や「独立子どもアドボカイト」導入ニーズと課題について分析。児童福祉施設、障害児施設への訪問聞き取り調査のあり方を検討。

(2) 「子ども家庭相談室相談員研修プログラム」開発プロジェクト

【概要】

「子ども家庭相談室相談員養成研修プログラム」を作成し、地域社会における子どもの人権救済を担う人を養成する。

【対象者】

子どもの権利擁護に関心のある人

【目的】

子どもの権利救済

【2014年度の目標】

- ・子どもアドボカイトに求められる役割と姿勢に関する調査と研究をおこなう。
- ・子どもアドボカシーとは何かを追究する。

(共通理解が必要であり、日本で何をめざしていくかが課題)

【実施事業】

・研究会

4/24 (木) 学校におけるアドボカシー①の検討
5/22 (木) 学校におけるアドボカシー②の検討
6/25 (水) 事例検討③
7/23 (水) 事例③の完成
9/24 (水) 半期の振り返り、事例検討④
10/16 (木) 事例④の完成
11/20 (木) 今後の動きの検討
1/16 (金) 2015年度事業計画、事例検討⑤
3/6 (金) 事例⑤の完成

・冊子掲載ワークの試行

12/19 (金) 「子ども家庭相談室」スタッフとともに
3/21 (土) 小中学校の現場の先生方とともに

・研修

2/13 (金) オンブズワークについて 講師: 吉永省三 (千里金蘭大学教員)

2. 子ども及び家庭のアドボカシー

(1) ファミリー子育て何でもダイヤル

【開設時間】

- ・毎週水曜10時～21時 TEL 06-6585-9287
- ・アクセス件数: 93件
- ・総通話時間: 60時間23分
- ・体制: 20人 (2～3シフト/1日、概ね1人あたり1～3回/月のローテーションを組んで担当)

【概要】

子どもや家庭のこと、自分のこと、どんなことでも話せる子育て家庭のための電話を実施する。

【対象者】

子どもや家庭に関するしんどさをかかえる人

【目的】

話を聴くことで、電話をかけてきた人が自分らしく生きる力をとりもどす。そのことで人と安心してつながる社会を広げていく。

【2014年度の目標】

- ・広報を充実させる。
- ・2013年度に養成した新スタッフとの交流を深める。
- ・スタッフ間の支えあう関係を築く。

【実施事業】

- ・実施日数: 49日
 - ・スタッフミーティング: 11回
 - ・スタッフ研修: 9/17(水), 1/7(水), 2/20(金)
 - ・スタッフ交流会: 11/24(月)
 - ・公開講座: 9/5(金) 10時～12時 HRCビル4階
「人の気持ちに寄り添ってあなたも私もたいせつな人」 講師: 水野スウ
- 参加者 49人
- ・広報: つどいの広場などの子育て支援施設、区民センターに常設、そのほか講座参加者、ももぐみ保育の保護者や、子どもの権利条約スタンプラリーや市民フェスタに参加してカードを配布(約2000枚)。また、今年度から折り紙で作ったカードケースに入れてカードを手渡しで配布(約600枚)。フェイスブックでも広報をはじめた。

(2) チャイルドラインOSAKA

【開設時間】

- ・毎週金曜16時～21時 TEL 0120-99-7777
- ・アクセス件数: 963件
- ・総通話時間: 140時間24分
- ・体制: 28人

【概要】

18歳までの子どもの専用電話の開設。全国統一フリーダイヤルで子どもたちの声を聴く。

【対象者】

18歳までの子ども

【目的】

- ・「子どもの意見表明」の場を確保する。
- ・子どもにかかわるおとなや社会へ子どもが意見表明することの大切さを伝え、子どもの現状を社会発信する。

【2014年度の目標】

- ・子どもの声をしっかりと聴く。
- ・振り返りを充実する。
- ・定例会、現任研修を実施する。
- ・広報の活動計画を具体的に立て実施する。
- ・年次報告書や『はらっぱ』特集での活動報告・社会発信をする。
- ・「子どもの声を聴けるおとな養成講座」を開催する。(スタッフ確保)
- ・スタッフの交流をはかり、多くのスタッフにシフトに入ってもらおう。
- ・全国のチャイルドライン実施団体と連携を取る。

【実施事業】

- ・定例会: 7回
- ・スタッフ研修
- ①『チャイルドラインで学んだ子どもの気持ちを聴くスキル』の著者
山口祐二さんを囲む会4/25(金)
- ②チャイルドラインいずみで合同研修 5/25(日)
- ③子ども情報研究センター開催の「ボランティア養成講座」受講
- ④合宿研修 7/26(土)、27(日)
チャイルドラインすいた・チャイルドラインひがしおおさかスタッフと
- ⑤チャイルドラインひがしおおさか開催「『子どもの声を聴けるおとな』養成講座」受講
- ⑥チャイルドライン全国研修 10/25(土)
- ・スタッフ交流会 4/6(日), 12/20(土)

- ・『はらっぱ』 特集記事 「もしもし、セックスって何なん？」にむけて座談会 7/25 (金)、8/8 (金)
- ・広報活動
 - ①大阪連絡会として大阪府立高校・市立高校、大阪府下の私立小・中・高校へポスター500枚を送 5/25 (日)
 - ②クラウドファンด์で支援を募り、大阪市内の小学生・中学生やフリースクールへ172,000枚のチャイルドラインカードを届けた (2月初旬)
 - ・他団体との連携
 - ①チャイルドライン大阪連絡会 4回
 - ②近畿北陸エリア会議 8/31 (日)
 - ③チャイルドライン全国運営者会議 1/30 (金), 31(土)

(3) 子ども家庭相談室

【開設日時・状況】

- ・電話： 毎週月・火・木曜 10時～20時 TEL 06-4394-8754
- ・相談件数：272件
- ・面接： 毎週木曜 10時～20時
- ・面接件数：58件
- ・調整：16回
- ・体制：9人

【概要】

- ・子どもの人権侵害にかかわる相談を、子どもやおとなから受け、子どもの権利条約をベースにして、子どもとともに解決を模索する。
- ・年次報告書を通じて、子どもの現状や子どもの声を聴く大切さを伝える。
- ・大阪府教育委員会「学校における児童・生徒のための『被害者救済システム』」の連携相談窓口である。

【対象者】

子ども

【目的】

「子どもの意見表明」を保障し、子どもが主体的に参加して、子どもの権利の回復をめざす。

【2014年度の目標】

- ・子どもの人権侵害事象の迅速な解決のためにシステムを再構築する。
- ・小学校、中学校、高等学校の新1年生に広報する。子どもに伝わるように独自の広報の実施をめざす。

(4)【大阪府教育委員会からの業務委託】「24時間電話相談」に係る夜間・休日等の教育相談

子どもや保護者からの相談に迅速に応じるため、24時間開設している相談電話。大阪府教育センター「すこやか教育相談」における電話相談の実施時間帯以外の時間帯（夜間・休日等）の電話相談業務の委託。

【開設日時・状況】

- ・日時：2014年4月1日～2015年3月31日
平日17:30～翌朝9:30および土・日祝日の終日
- ・相談件数：1,830件

(5)大阪市地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

●育児＆育自“この指と～まれ！”(淀川区)

【概要】

- ・大阪市からの業務委託
- ・ひろば事業の運営

【開設日時・状況】

- ・日時：毎週月～金曜 11時～16時

【対象者】

0歳から3歳（就園前）の子どもとその保護者

【目的】

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流を促進する。
- ・子育てに関する相談及び援助を実施する。
- ・地域の子育て関連情報を提供する。
- ・子育て及び子育て支援に関する講習会等を実施する。
- ・地域の関連機関や子育て支援活動をおこなう団体等との連携、地域に出向いた地域支援活動を実施する。

【2014年度の目標】

- ・マタニティ層と子育て親子の交流：生まれる前から交流することで育児不安を取り除き、楽しい育児環境を整備する。
- ・子育て親子のニーズにあわせた講座やイベントの実施、商店街という立地を生かした地域交流や世代間交流をする。

【実施事業】

- ・通常開催（絵本手遊び・ティールーム）
参加者 おとな 1,995人、子ども 2,005人
- ・相談件数 205人
- ・ブックスタート、お話し会、英語で遊ぼう!、お誕生会、ベビーマッサージ、リトミックなど
参加者 おとな551人、子ども590人
- ・定例会：毎月1回スタッフ全員参加
- ・広報：毎月1回予定表発行

●はっぴいポケットみ・な・と(港区)**【概要】**

- ・大阪市からの業務委託
- ・ひろば事業の運営

【開設日時・状況】

- ・日時：毎週月・火・水・金・土曜 10時～15時

【対象者】

子育て中の親と乳幼児

【目的】

安心して子育てできる居場所と地域づくり

【2014年度の目標】

- ・講座（絵本やあそび等）を通して、世代や立場が違っても安心してコミュニケーションがはかれるようなひろばづくりをおこなう。
- ・地域との連携の充実（子育て支援の連絡会「みんなと子育てしチャオ会」、港区こども育成事業、港区おもちゃ図書館ひまわり等の参加）をはかる。

【実施事業】

- ・年間実施日 233日
- ・年間参加人数 子ども2,472人、おとな1,897人
- ・来所相談件数 272件
- ・講習、イベント回数 315回。参加人数 子ども1932人、おとな1393人。
内容 英語であそぼう、ベビーマッサージ、ヨガ、ハンドマッサージ、まえむきIPPO、えほんひろば、公園あそび、氷あそび、工作づくり、おしゃべり会など
- ・スタッフ定例会 12回
- ・広報 みなと通信月1回発行

(6) 大阪市こども相談センター不登校児童通所事業**【概要】**

- ・大阪市からの業務委託
- ・不登校の居場所事業の運営

【開設日時・状況】

- ・開設日時：毎週火・水・金・土曜
- ・開設時間：11時～15時半

【対象者】

不登校の小学生・中学生

【目的】

- ・学校や家庭で傷ついたり課題を抱えたりした子どもが、あるがままの自分自身を受け入れ、肯定し、自分らしく生きられるために居場所を開設する。
- ・子どもが安心して生きていくために子どもの関係する機関と連携する。

【2014年度の目標】

- ・ボランティアスタッフを増員する。
- ・ボランティア養成研修の広報場所を開拓する。
- ・コーディネーターを増員、資質の向上を図る。

【実施事業】

- ・スタッフ数：13人
- ・登録者数：小学生1人、中学生12人
- ・特別活動プログラム
野外活動（鞆公園） 10/11（土）

- おしまい会 3/14 (土)
- ・スタッフ会議
毎月最終土曜日 (12月を除く)
- ・新規スタッフ養成講座
5/10 (土), 6/7 (土), 7/5 (土), 8/26 (火), 11/12 (水), 12/3 (水), 2/17 (火) 計7回

回

(7) 大阪府子ども家庭サポーター協議会(サポーターネット)

【概要】

市民による子育て支援を広げるために、児童虐待予防や地域の子育て支援に関心のある市民の情報交換やスキルアップを図る場が必要であり、「大阪府子ども家庭サポーター*」の有志と当センターが中心となり協議会をつくった。講座や講演等を企画・開催している。

* 「大阪府子ども家庭サポーター」とは、2001年から2006年、市民の立場で児童虐待防止の役割を担うことを目的として、大阪府内に約1000人を養成した「大阪府子ども虐待防止アドバイザー」の愛称である。当法人が大阪府より委託を受け、養成研修を実施した。

【対象者】

「子どもの虐待」に心を寄せる人

【目的】

虐待の社会的背景を問い直す。

【2014年度の目標】

昨年度に引き続き、「子ども虐待防止オレンジリボン共催イベント」に応募し、地域での児童虐待防止にかかわる会を開催する。前段階として学習会を重ね、自前で現代社会を読み解けるよう、資料・文献を読みあわせる。

【実施事業】

- ・学習会「“ネグレクト”を問いなおす～母親を追いつめるものは何か～」
参加申込み18人
-第1回4/23 (水) 参加人数10人
-第2回5/28 (水) 参加人数12人
-第3回6/25 (水) 参加人数10人
- ・「ジェンダー平等をめざす藤枝濤子基金助成」交付申請 (45万円) →不採用 (7月)
- ・『はらっぱ』9月号 特集「母を追いつめるものはなにか」企画編集および執筆
- ・『はらっぱ』9月号を読む会 10/1 (水)
参加申込み12人 参加人数10人
- ・「ガールズ・ヘルプライン プロジェクトin大阪」 11/15 (土)
参加申込み29人 参加人数28人
- ・「特定非営利活動法人BONDプロジェクト」との共催
- ・「オレンジリボン助成金」申請
- ・読書会「母の基準『少子化時代の「良妻賢母」』を読んで」
1/28 (水), 2/18 (水), 3/25 (水)
参加申込み13人 参加人数10人前後
- ・企画会議 7/9 (水), 8/27 (水), 10/22 (水), 12/3 (水)

(8) 講座付き保育体験事業(保育部ももぐみ)

【概要】

子どもが意見表明しながら、自分で居場所を見つける「保育」(人権を大切にする保育)を広く市民に啓発する。子どもが親と離れて友だちや他のおとなたちと出会い、ともに過ごす場を提供し、「保育部ももぐみ」という愛称で「講座付き『保育』」をおこなう。子どもの人権を大切にする独自プログラムを、子どもは保育として、保護者は講座として、それぞれに体験する。

【対象者】

保育が必要なすべての子どもとその保護者

【目的】

子どももおとなも一人の人として尊重されることを、体験を通して啓発する。

【2014年度の目標】

- ・ももぐみの組織としての形を整える。
- ・講座付き保育を広く発信する。

【実施事業】

- ・講座付き保育講座を開催。
- ・もくようポケットの実施。
- ・人権保育の実践(子どもの人権を大切にする保育)。
- ・「ももぐみだより」の発行。

※保育担い手養成、派遣事業(保育部ももぐみ)は、P.17に掲載

3. 子どもの参加の促進

(1) ティーンズ・メッセージ from はらっぱ編集

【概要】

子どもの社会参加を促進するため、子ども編集部スタッフを募り、『はらっば』の「ティーンズ・メッセージfromはらっば」の連載を担当。(子ども編集部スタッフ会議を開き、企画、取材、執筆までを子どもたちが担う)

【対象者】

18歳までの子ども

【目的】

- ・自分たちの気持ちや考えを、自分たちの言葉で社会に発信する。
- ・発信を通して、社会参加する。

【2014年度の目標】

毎年、最初の子どもの編集部スタッフ会議では、1年(11号分の掲載)でおさまらないほど多くの企画ができる。今年は、昨年よりひとつでも、1人でも多くの企画を実現させて、感じたことや考えたことを発信する。

【実施事業】

- 4月号 THE対談「僕たちはつながりを広げていく、これから」
- 5月号 THE対談「僕たちはつながりを広げていく、これから」(パート2)
- 6月号 子どもの声はカタチになる～第5回東北子どもまちづくりサミット～
- 7月号 今年もやるで!はらっば子ども編集部!
- 8月号 歩く!食べる!そしてまた歩く!～奈良を周る～
- 9月号 夢がかなった!!テレビ局にいったよ。
- 10月号 夏休みは子どもの声でつくった楽校であそぼう!
- 11月号 夏休みは子どもの声でつくった楽校であそぼう!(パート2)
- 12月号 USJのおもてなしを取材してみた!たくさんの夢を与えてくれるお仕事
- 1・2月合併号 行ってきました!子どもの権利条約フォーラムin東京
- 3月号 初めての取材 in 集英社 『週刊 少年ジャンプ』編集部

(2)「きみの声で楽校をつくろう!」プロジェクト

【概要】

子どもが自分の考えを表明し、様々な人との交流を通して、自分が知りたいことを知り、学びたいことが学べる「楽校」を、子どもの手で作る。

【対象者】

子ども

【目的】

- ・楽校づくりの過程において、子どもが自分の手で「憧れ」を「現実」にしていける手応えを実感し、自分の力に気づく。
- ・子どもとおとなのパートナーシップについて、実践的に学びあう。

【2014年度の目標】

- ・子ども会議や本番当日の運営を、より子どもたちが主体となって活動できるようにする。
- ・事前に、ユーススタッフとおとながゆっくり話しあえる場をつくる。
- ・開催後に活動を丁寧に振り返り、気づきを社会発信する。

【実施事業】

- ・日程: 子ども会議7/5(土), 7/13(日), 7/27(日), 8/5(火), 8/10(日) 13:30~16:00
本番8/12(火), 13(水) 10:00~16:00
- ・場所: 堺市立梅文化会館
- ・参加人数: 68人(小学生, 中学生) * スタッフとして高校生(12人)も参加
- ・子どもゆめ基金助成事業

(3)子どもの権利条約フォーラムへの参加

【概要】

子どもの権利条約フォーラム*に子どもが参加し、分科会の企画と実施にかかわる。
*1993年から毎年、全国各地で開催。フォーラムを通して、子どもの権利条約の実施・普及や子ども支援にとりくむ個人、NGO、NPOなど団体の交流、自治体との協力・連携をすすめている。

【対象者】

18歳までの子ども

【目的】

- ・分科会の企画、実施にかかわることで、子ども自身が自分の力に気づく。
- ・子どもたちが、子どもの権利条約の存在を知る。

【2014年度の目標】

- ・これまで参加していない子どもにも参加を広く呼びかける。
- ・子ども主体の分科会を担当する。

【実施事業】

- ・子どもの権利条約フォーラムin東京への参加
- ・日時: 11/15(土), 16(日)
- ・場所: 早稲田大学
- ・参加人数: 子ども5人、おとな3人

4. 子どもの権利に関する図書の編集

(1) 月刊『はらっぱ』編集

【概要】

- ・子どもを取り巻くさまざまな課題をとらえる誌面を月刊で編集する。
- ・当法人の各事業から見えてきた子どもの人権の現状や課題を発信する。
- ・各地の人権保障の取り組みを紹介する。
- ・当法人ホームページで公表、会員には、誌面媒体として毎月送付する。

【対象者】

子どもの人権に関心のある人

【目的】

- ・子どもの権利や解放教育をはじめ、平和・教育・ジェンダーなど、社会に広く存在するさまざまな課題について、知り、考え、語りあうためのツールとする。
- ・地域社会に子どもの人権文化が根づくことをめざす。

【2014年度の目標】

- ・「子どもの権利条約」を社会に根づかせるための情報提供と、企画・提案を誌面に反映させる。
- ・つねに最新の社会的課題に対する先鋭的な視野を養い、それを広く知らしめ、語りあう場の提供に努める。

【実施事業】

特集

- 4月号 子どものあそびの今
- 5月号 「いじめ防止基本方針」策定と検証のポイント
- 6月号 「障害者差別解消法」を暮らしのなかに生かそう
- 7月号 子ども発の表現とは 絵画から子どもの人権について考える
- 8月号 若者の戦争
- 9月号 母を追いつめるものはなにか
- 10月号 働いていなくて「子どもを預ける」ということ
- 11月号 もしもし、セックスって何なん？
- 12月号 日本は「平和」ですか？
- 1・2月合併号 子どもの権利条約は希望のツール 子どもの権利条約批准20年をむかえて
- 3月号 これでいいのか認可保育所

【コーナー構成】

表紙／もくじ／特集／はらっぱを吹く風／観察の眼（想田和弘連載）【新規】、「小さな声に」耳をすまして（BOND プロジェクト連載）【新規】（隔月）／ティーンズ・メッセージfromはらっぱ／誌上・連続講座「子どもの人権と保育教育」／からだ・ことば・リズム／子ども時評／子育て温泉／はたらく【新規】（隔月）／親と子の自然教室、ともに生きる（隔月）／子どもの権利条約—批准20年をむかえて—／センター発／LETTERS／だから、これが好き／スタッフの、ひとりごと…☆／ニュース切り抜き帳／ニュースもうちょっと知りたい【新規】／情報／PICK UP／事務局日誌

(2) 書籍の編集・発行

【概要】

子ども情報研究センターの研究成果の積み重ねを書籍に編集し、発行する。

【2014年度事業内容】

編集発行なし

(3) 年次報告書編集

【概要】

各事業の年次報告書を作成し、子どもの人権の現状と課題を発信する。

【2014年度事業内容】

「ファミリー子育て何でもダイヤル」年次報告書を作成

5. 子どもの権利に関する研修

(1) 第36回人権保育教育連続講座

会 場：HRCビル5階ホール

テーマ：子どもの人権を大切にする保育を、ともに

参加者：前期341人、後期253人

【前期プログラム】

日程	テーマ	講師
6/4 (水)	今、乳幼児が育つ場で大事にしたいこと ～0歳からの人権保育がめざすこと～	堀井二実（大阪人権保育連絡協議会代表）
6/20 (金)	「個性」のある子どもとの向き合い方	小道具モコ（自閉症スペクトラム当事者）／コーディネーター：久賀谷洋（NPO法人SKIPひらかた 児童発達支援管理責任者）

6/27 (金)	笑顔いっぱい うたあそび～ひととふれあうあたたかさ、なかまとつながる楽しさを！～	谷畑恵子（リズムと表現の会）
7/10 (木)	絵からみえる子どもの心は感動がいっぱい！～乳幼児期の表現と子どもの尊厳～	永渕泰一郎（畿央大学教育学部現代教育学科）
7/18 (金)	子どもの権利条約と保育	田中文字子（子ども情報研究センター理事）

【後期プログラム】

日程	テーマ	講師
10/17 (金)	子どもとともに自然に生きる さあ、自然の中にとびだそう！	実践報告：加茂直美（豊能町立吉川保育所）／コーディネーター：森山康浩（子ども情報研究センター代表理事）
10/31 (金)	幼保一元化	実践報告：大米美初香（伊丹市立幼稚園）／コーディネーター：田中文字子（子ども情報研究センター理事）
11/7 (金)	子どもたちに「生きる力」を育てる絵本実践	実践報告：阪本明子（松原市保育所）／コーディネーター：堀井二実（大阪人権保育連絡協議会代表）
11/21 (金)	「女の子」「男の子」はつくられる “らしさ”にとらわれない保育とは	栗本敦子（Facilitator's LABO<えふらぼ>）
12/5 (金)	家庭訪問支援のポイント	田中文字子（子ども情報研究センター理事）

(2) 共同子育て連絡会

【概要】

地域の子育て支援事業を充実させるため、子育て家庭の現状や課題、子育て支援のあり方について、共同子育ての理念のもとに、研修・学習会をおこなう。

【対象者】

子どもにかかわるすべてのおとな

【目的】

- ・子育ては社会共同の営みであることを再認識する。
- ・子育てを取り巻く垣根を取りはらって、共同子育てを広く発信する。

【2014年度の目標】

- ・共同子育て連絡会発冊子を作成する。
- ・共同子育ての理解を促すための資料を作成する。

【実施事業】

地域子育て支援の実践者が集まり、以下の活動において、「共同子育て」について議論を深め、その成果を発信した。

- ・定例会4/1（火）、5/13（火）、6/22（日）、7/8（火）、1/27（火）、3/2（月）
- ・『はらっぱ』の共同子育て連絡会発「子育て温泉」のコーナーを担当（年間6回）
- ・『はらっぱ』2014年10月号特集「働いていなくて『子どもを預ける』ということ」を保育部ももぐみと共同で担当。

・講座の開催

講座名：共同子育て連絡会発ゼミナール

日時：9/2（火）

場所：HRCビル5階小会議室

内容：「鈴木昭子さんを囲む会」～共同子育てをともに～

子ども情報研究センター設立当初より、共同子育てをすすめる運動や、「リズムと表現の会」を主宰してこられた鈴木昭子さんを囲む会。

参加人数：18人

(3) テーマ別研究部会

【概要】

保育教育の現場において、子どもの人権の観点に立った実践を拡充するため、以下の5つのテーマで研究学習会を実施している。「障害児の生活と共育を考える」「子ども人権」「子育て連携」「子どものことばと生活」「からだ育て」の5部会がある。月1回から年数回おこなっている。

●「障害児の生活と共育を考える」：堀正嗣（熊本学園大学教員）

【概要】

障害児のインクルーシブな保育・教育、地域での生活について、研究者と当事者・実践者が情報を交換し合い、理論と方法を探求する。

【実施事業】

2014年度は開催なし。

●「子ども人権」：住友剛（京都精華大学教員）

【概要】

学校教育や保育、福祉、地域社会、家庭の子育て、文化・スポーツ・あそび・余暇等の諸領域における子どもの人権に関する諸課題や、子どもの権利条約及び国連子どもの権利委員会の総括所見などに関する学習を中心的にすすめる。

【対象者】

- ・子ども情報研究センター会員
- ・関連する諸領域に関心のある市民・研究者・学生等

【目的】

子どもの人権及び子どもの権利条約に関する諸課題への意識啓発、研究・学習活動。

【2014年度の目標】

年4回程度の学習会（読書会）を開催する。

【実施事業】

- ・大阪市教育委員会が「個別指導教室（仮称）」の実施を検討中であるとの報道をきいて、子ども人権部会・子育て連携部会が合同で会合を持ち議論を重ねる。
- ・日程：6/28（土），7/19（土），11/1（土），1/10（土），2/16（土）
- ・会場：HRCビル
- ・ホームページとFacebookにて、2/25（水）付で、“大阪市教育委員会の「個別指導教室（仮称）」について私たちが考えたことー子ども情報研究センター子ども人権・子育て連携合同部会からのメッセージ”を配信。

●「子育て連携」：井上寿美（関西福祉大学准教員）

【概要】

子どもの育ちは、家庭や学校園所だけでなく、家庭や学校園所外の場所、また、親や学校園所の教職員・保育士だけでなく、親でも教職員・保育士でもないおとなとの関わりによって支えられる必要がある。多様な人たちが多様な立場から子育てを支えるネットワーク等に関する学習を中心に進める。

【対象者】

- ・子ども情報研究センターの会員
- ・学習テーマに関心のある市民・研究者・学生等

【目的】

子育てを支える地域のネットワーク等について学ぶ。

【2014年度の目標】

「学校園所・地域で子どもの育ちを支える一部落解放子ども会・青少年会館の実践から学ぶ」というテーマで、2009年度から5年間にわたって取り組んできた学習会で得られた知見をまとめ、社会に発信する。

【実施事業】

- ・大阪市教育委員会が「個別指導教室（仮称）」の実施を検討中であるとの報道をきいて、子ども人権部会・子育て連携部会が合同で会合を持ち議論を重ねる。
- ・日程：6/28（土），7/19（土），11/1（土），1/10（土），2/16（土）
- ・会場：HRCビル
- ・ホームページとFacebookにて、2/25（水）付で、“大阪市教育委員会の「個別指導教室（仮称）」について私たちが考えたことー子ども情報研究センター子ども人権・子育て連携合同部会からのメッセージ”を配信。

●「子どものことばと生活」：早川勝廣（平安女学院大学教員）

●「からだ育て」：天野忠雄（元中学校教員）

(A) 開催場所: HRCビル

日程	テーマと内容
4/23 (水)	からだとは何か（ワロンのからだ観・子ども観）。わらべ唄のこと。遊びとおもちゃの世界について。
6/18 (水)	ふれる（触）ーさわる宇宙への旅。ブラインドサッカーの紹介等。イメージと絵本のことなども。
9/10 (水)	『からだことばをひとつに』ーつるまき体操が紹介された頃のパンフレットを資料に、野口体操ーつるまき体操の変遷を実技をまじえて再学習。
11/12 (水)	『しなやかさというたからもの』（国分一太郎）という本の中に、キル、とぐ、ゆう、ヒネル、ネジル等の動作のことが述べられている。ままごとあそびをそのような視点で考えてみた。
1/14 (水)	姿勢、呼吸、ヨガ、パントマイム、インナーマッスル（体の深い部分の筋肉）と東洋医学、西洋医学の身体観など結構難しい領域のことを学習した。
3/11 (水)	笑いとは。治療としての笑い。文化としての笑い。あかちゃんの泣くと笑い。笑いの構造について。

(B) 開催場所: 保育所聖愛園

日程	テーマと内容
9/21 (日)	運動会前、走り方の基本-1 腕を大きくふる 2 地面をつよくける 3 一歩を大きくする 4 ゴールを5m先にイメージ トラックのカーブの曲がり方。 リレーのバトン・パスの仕方などを試みる。

(4) 大阪市子ども家庭支援員研修

【概要】

大阪府は、広く子育て家庭の権利を守り、児童虐待を予防するために訪問支援をする「子ども家庭支援員」の認定と現任研修を実施している。当法人は引き続き委託を受け、下記のとおり実施した。

【事業内容】

・認定研修プログラム

日程：2014年9月25日～11月19日

修了者数：受講者6人のうち6人修了

プログラム：

開催日	テーマ	内容	講師
9/25 (木)	1. 開講式		大阪市こども青少年局
	2. 養育支援訪問事業の意義と内容	養育支援訪問事業とは	木村百合(元吹田子ども家庭センター所長)
	3. 児童虐待防止における市民の役割	自己紹介、出会いのワーク 専門機関と異なる視点から、市民が関わることの大切さについて	田中文字子(千里金蘭大学教員) 公益社団法人子ども情報研究センタースタッフ
	4. 家庭訪問支援の基礎	訪問支援の中で、留意しておくべきポイントとは？	田中文字子(千里金蘭大学教員)
10/8 (水)	5. 子育て家庭の現状と課題①	児童虐待とは、児童虐待防止法、こども相談センターの機能と役割、市民との協働について	宮井研治(大阪市こども相談センター 家庭回復支援担当課長代理)
	6. 家庭訪問支援の実際①～子どもに寄り添う～	事例から家庭訪問支援の実際について学ぶ	奥村仁美(NPO法人SAKAI子育てトライアングル代表理事)
	7. 【演習】支援の基本は聴く	自分の価値観に気づくワーク、傾聴のワーク	山下裕子(公益社団法人子ども情報研究センター事務局長)
10/25 (土)	8. 子育て家庭の現状と課題②	DV家庭、ひとり親家庭、子どもの貧困の現状などから	蕨川晴之(社会福祉法人石井記念愛染園わかさ保育園園長)
	9. 家庭訪問支援の実際②～親に寄り添う～	事例から家庭訪問支援の実際について学ぶ	小谷訓子(子・己育ち相談リリーフ主宰)
11/19 (水)	10. 家庭訪問支援の実際③～親子関係に寄り添う～	事例から家庭訪問支援の実際について学ぶ	松浦洋栄(助産師)
	11. 訪問活動をはじめの前に	講座のふりかえり、個人情報保護の取り扱いについて 訪問活動をはじめの前に留意しておくべきポイントの確認	今橋千晶(公益社団法人子ども情報研究センター理事)
	12. 終了式		大阪市こども青少年局

・実践研修プログラム

対象：49人

会場：HRCビル内 研修室(12/9は5階研修室、1/19は4階研修室)

プログラム：

日程	テーマと内容	講師	参加人数	
12/9 (火)	13:00～15:00	ハイリスク家庭の現状と課題①～家庭の抱えるしんどさ～	神田真知子(児童虐待防止協会)	20人
	15:00～17:00	支援の実際と課題	今橋千晶(子ども情報研究センター)	15人
1/19 (火)	13:00～15:00	ハイリスク家庭の現状と課題②～子どもの抱えるしんどさ～	西川日奈子(NPO法人西淀川子どもセンター理事長)	17人
	15:00～17:00	【交流】今、困っていることをみんなで考えよう	今橋千晶(子ども情報研究センター)	18人

(5) 子どもとあそびのネットワーク

【概要】

子どもの発想やあそびの過程に視点を向け、子どもの自主的なあそびを大切にするつながりを広げるために交流、研修、意見交換などを行い、情報を発信していく。

【対象者】

子ども自らの力に寄り添いつきあえるおとな

【目的】

- ・子どもの主体性を保障する。
- ・子どもにとってやってみたいこと「あそび」の価値を社会に発信していく。

【2014年度の目標】

- ・これまでは、就学前の子どもからの「あそび」が中心であったが、今年度は、対象を広げていく。
- ・子どものあそびをきっかけにしたつながりを広げる。
- ・いろいろなあそび方を認めあう。

【実施事業】

・交流会

①ちょこっとあそび

日時：6/24（火）、6/25（水）、11/26（水）10：30～11：30

場所：HRCビルロビー

参加者：各回2～7人

②AIAIフェスタ「こどもあそびひろば」

日時：11/1（土）

場所：HRCビルロビー

参加者：スタッフ16人、参加者多数

・グループ訪問「おじゃまんぼう」

施設や団体へ訪問し、交流や意見交換などを行う。

訪問の様子は、ブログで報告

参加者：延べ48人

日程	訪問先
5/22（木）	childroomまめっこ
6/6（金）	大阪発達総合療育センター ふたば園
7/17（木）	いちいさなこどもたち
8/12（火）・13（水）	夏休みは子どもの声でつくった楽校であそぼう
8/24（日）	にしなりあそびパーク
10/24（金）	もとまちさくらさくほいくえん
11/30（日）	自然教室 ～自然の見方・ふれあい方～
12/20（土）	地域生活サポートネットほうぶ 放課後等デイサービス楽童ほうぶ
1/21（水）	箕面こどもの森学園
2/15（日）・22（日）	ぽっぷんポケット
3/10（火）	ドーナツ

・定例会

4/27（日）、7/17（木）、1/25（日）（各回5～13人参加）

・依頼講座：6件

(6) 自然教室

【概要】

子どもとともに自然に接し、自然とともに生きることを実感できる場の提供として、戸外において研修会を開く。

【対象者】

子どもとおとな

【目的】

子どもとともに自然に接し、自然とともに生きることを実感する。

【2014年度の目標】

身近な自然に触れる機会を増やす。

【実施事業】

自然観察会「自然の見方・ふれあい方」

日時：11/30（日）10：00～15：00

場所：大阪城公園

内容：身近な自然を活用した遊び、自然の見方、ふれあい方の紹介

講師：森山康浩（子ども情報研究センター代表理事）

参加者：子ども2人、おとな5人

(7) 大阪発保育・子育てを考える集い

【概要】

大阪において、子育て・保育・教育にかかわる人たちの研修の機会をつくり、保育・教育関係者の資質の向上を図るため、さまざまな立場の者が集い、子どもの人権の観点に立った保育教育の創造に向けて議論の場をつくるため集会を開催する。（2001年度より、自治労大阪府本部との共催）保育所、幼稚園、学童保育に従事する職員を中心に、広く市民の参加を呼びかけて、講演会等をおこなう全体会とテーマに分かれて学びあう分科会を開いている。

【対象者】

保育、子育てに関心のある人、約300人

【実施時期】

隔年9月頃

※隔年開催のため、2014年度は開催なし。

(8) 子ども支援学研究会**【概要】**

児童福祉、教育、保健等さまざまな分野において、子どもの権利の観点を拡充するため、子ども支援に関するセミナーを開催する。子ども支援のために何が必要か、何ができるのか。「子どもにやさしいまち」「権利基盤アプローチ」「子ども支援」をキーワードに、問題提起者を迎え、示された論点に沿って討議を行う。

(「子どもオンブズパーソン研究会」「NPO法人子どもの権利条約総合研究所」との共催。)

【対象者】

研究者、テーマに関心のある人

【目的】

子どもの権利条約を基盤にした「子どもにやさしいまちづくり」をひろげていく。

【2014年度の目標】

政府の「いじめ防止対策推進法」に基づき、全国の各自治体・各学校では「いじめ防止指針」作りが求められている。この取り組みが、子どもの権利を基盤にした取り組みとなるようモデル案を提示していく。

【実施事業】**・子どもの権利の視点から「いじめ」問題を考える(part2)**

～「子どもにやさしいまち」へのアプローチと「いじめ防止」～

日時：6/29（日）13：30～17：00

場所：HRCビル4階研修室

参加者：23人

*問題提議：「附属機関」における子どもの人権救済の機能と役割

「子どもにやさしいまち」をめざす子ども条例の新たな試み

半田勝久（日本体育大学教員、世田谷区子どもの人権擁護委員）

竹内麻子（せたがやホッと子どもサポート調査相談専門員）

浜田寿美男（川西市子どもの人権オンブズパーソン・代表オンブズ）

*報告：「子どもにやさしいまち」をめざす子ども条例の新たな試み

古藤典子（泉南市教育委員会事務局・子どもの権利に関する条例事務局）

・いま求められる自治体の役割と公的第三者機関の働き

～いじめ防止法・子ども支援新制度を視野に入れて～

日時：2/1（日）13：30～17：00

場所：HRCビル4階研修室

参加者：28人

報告：豊田市の子どもにやさしいまちづくりにおける子どもの権利擁護委員の働き

大村 恵（豊田市子どもの権利擁護委員／愛知教育大学教員）

板倉治子（とよた子どもの権利相談室 主任相談員）

問題提議：

①いじめ防止対策推進法を視野に入れて

荒牧重人（山梨学院大学大学院教員）

②子どもの貧困対策推進法を視野に入れて

西野 緑（大阪府教育員会チーフ・スクールソーシャルワーカー）

③子ども子育て新制度を視野に入れて

田中文子（子ども情報研究センター理事）

(9) 研修講座の企画運営**【概要】**

子どもの権利擁護にかかわる行政職員や一般市民の資質向上を図るために、人権保育教育に関する講座の企画、講師紹介をおこなう。

【2014年度の目標】

・子どもの権利条約批准20周年の今年に、子どもの権利条約を広く知ってもらう。

・子ども情報研究センターにかかわる仲間を増やす。

【実施事業】**・総会記念企画**

講演会「原発事故母子避難から子どもの人権について考える」

日時：5/18（日）13：30～16：00

講師：森松明希子（福島県郡山市から大阪市へ母子避難）

著書『母子避難、心の軌跡一家族で訴訟を決意するまで』（2013年）

参加者：71人

・子ども情報研究センターボランティア養成講座「子どもたちにやさしい社会をめざして2014」

ボランティアスタッフの拡充、研修の充実のために、事業部門合同で「ボランティア養成講座」を企画し開講。

日程：6/8（日），6/22（日），7/6（日）

参加者：45人

プログラム:

日程	時間	内容	講師
6/8 (日)	①10:00～ 12:00	・子ども情報研究センターって？	田中文字子(千里金蘭大学 教員)
	②13:00～ 15:00～	・子どもの権利条約スタンプラリー ・交流会 ボランティア案内 ～お茶を楽しみながら～	子ども情報研究センター ボランティアスタッフ
6/22 (日)	③10:00～ 12:00	・「聴く」とは？	小谷訓子（子・己育ち相談“リリーフ” 主宰）
	④13:00～ 15:00	・わかりやすい子どもの権利条約 ～具体例をもとに考える～	浜田進士（子どもの権利条約総合研究所 関西事務所長）
	⑤15:20～ 17:00	・学校の中の子どもたち ～なくならないいじめ、体罰～	子ども情報研究センター 子ども家庭相談室相談員
7/6 (日)	⑥10:00～ 12:00	自然と子どもたち ・自然の力とエンパワメント ・自然観察会へのお誘い	森山康浩（子ども情報研究センター 代表理事・共同研究者）
	⑦13:00～ 14:30	からだとの対話 ・からだがかたいつてどういうこと？ ・からだ育て部会へのお誘い	天野忠雄（子ども情報研究センター からだ育て部会）
	⑧14:40～ 15:30	・振り返りの会 ・質疑応答 ・ボランティア登録	子ども情報研究センター ボランティアスタッフ

・子どもの権利条約批准20周年記念企画「関西子どもの権利条約フォーラム2014」

関西子どもの権利条約フォーラム2014実行委員会を組織し、“子どもの権利条約が保障されている関西”の実現にむけてフォーラムを開催。

日時：11/9（日）10：00～16：30

場所：HRCビル

参加者：子ども22人、おとな116人

内容：

【分科会】

生きる権利「子どもの生きる権利を奪わないで！！」

育つ権利「子どもは自分らしく育っていい！！」

守られる権利「子どもへの暴力はNO！！」

参加する権利「子どもの声を聴いて！！」

【全体会】

1部：子どもの権利条約について、分科会報告、提言発表

2部：ワールドカフェ「子どもの権利が保障されている関西」の実現に向けてみんなで語ろう！

・大東市就学児童エンパワメント育成事業

大東市より、被虐待児の居場所事業ボランティア養成研修と夏・冬・春休みの居場所スタッフ派遣の委託を受け、下記のとおり実施した。

①ボランティア養成研修

日程：6/22（日），6/28（土），7/5（土） 14：00～17：15

場所：大東市北条第二地区自治会館、大東市立北条人権文化センター

プログラム:

日時	テーマ	講師
6/22 (日)	・ガイダンス	・大東市 ・西野博之 (NPO法人フリースペースたまりば理事長) ・家本朋美、席田直子 (特定非営利活動法人み・らいず)
	・子どもの居場所からⅠ	
	・子どもの居場所からⅡ ・きいてみよう	
6/28 (土)	・子どもの居場所からⅢ	・小谷訓子（こらぼれチップス） ・奥村仁美（NPO法人SAKAI子育てトライアングル代表理事）
	・居場所プログラムをつくろう！	
7/5 (土)	・子どもの権利侵害とは？	・中村みどり (Children's Views&Voice スタッフ) ・岩本信江・橋本暢子（公益社団法人子ども情報研究センター） ・大東市
	・子どもの人権をベースにした居場所を！	
	・知ってる？子どもの権利条約これから	

②居場所スタッフとして3人派遣

夏休み 7/22 (火) ~8/22 (金) , 冬休み 12/25 (木) ~1/7 (水) , 春休み 3/31 (火)

・八尾市子育て支援担当者研修

八尾市より子育て支援担当者研修の委託を受け、実施した。

日程：9/29 (月) , 11/19 (水) , 1/26 (月) , 2/23 (月)

プログラム:

日時	内容	講師	対象
9/29 (月) 10:00 ~12:00	「子どもから学ぶ」 人権保育の視点から子ども観をとらえなおす 子育て・子育て当事者の思いに寄り添うとは	堀井二実 (大阪人権保育連絡協議会/元園田 学園女子大学短期大学部教員)	つどいの広場・ファミサ ポ・養育支援訪問員 30人
11/19 (水) 14:00 ~16:00	「みんなでつくる①」【ワークショップ】 自分の価値観を知る 1人ひとりのちがいを知り、認めあう 人と人との境界線について、聴く	橋本暢子 (子ども情報研究センター理事)	つどいの広場スタッフ 20人
1/26 (月) 10:00 ~12:00	「みんなでつくる②」【ワークショップ】 それぞれの現場から見える課題や困りごとを出し合 い、人権の視点から整理する	奥村仁美 (NPO法人SAKAI子育てトライアング ル代表理事)	つどいの広場スタッフ 20人
2/23 (月) 10:00 ~12:00	「つながることのゆたかさ」 市民による子育て支援、家事支援、養育訪問支援に おいて大切にしたいこと	田中文字子 (千里金蘭大学 教員)	つどいの広場・ファミサ ポ・養育支援訪問員 30人

・哲学カフェ 民主主義を考える

日程：5/20 (火) , 6/17 (火) , 7/15(火) , 8/19(火) , 9/16(火) , 10/21(火) , 11/18(火) , 12/16
(火) , 1/20(火) , 2/16(月) , 3/16(火) 18:00~20:00

講師：吉永省三 (千里金蘭大学)

テキスト：『民主主義と教育』デューイ著 (岩波文庫)

(10) 若者プロジェクト

会員やボランティアスタッフに学生、若者層を増やし、団体の活性化を図るために若者が主体とな
り設立。コンセプトは、「自分が知らずしらずのうちにもっている『偏見』や『先入観』に気づ

【実施事業】

・東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭への参加

日時：11/23 (日) 11:00~16:00

場所：長居公園自由広場

内容：子ども人権ワークショップ「まっぼっくりツリーづくり」

・HRCビル専従者友の会学習会、進行役担当

日時：11/28 (金) 18:30~20:00

場所：HRCビル4階研修室

内容：「戦争って何がアカンのか、みんなで考えてみよう」

参加者：14人

6. 子どもの権利に関する国際交流

【概要】

アジア各国の厳しい現実とかかわる人々の活動を、日本の保育・教育の現場で広く活かすために、
相互に子どもの人権保障の取り組みの現状と課題を出しあう講座や情報交換会を開催する。

【対象者】

保育・教育に関わり、関心のある方

【目的】

アジア各国の厳しい現実とかかわる人々の活動を、日本の保育・教育の現場で広く活かすために、
互いに学びあい、豊かな人権感覚を身につける。

【2014年度の目標】

カンボジアとタイの子どもの現状から学ぶ。

【実施事業】

・講演会の開催

テーマ：「いま、タイの子どもたちは~わたしたちがNGOをつくったワケ~」

日時：11/29 (土) 14:00~16:00

場所：HRCビル4階研修室

講師：ムアイ、ギップ、松尾久美 (タイ教育支援NGOマレットファン (夢のたね))

参加者：29人

Ⅲ 収益事業

1. 保育担い手養成、派遣事業(保育部ももぐみ)

(1) 保育者(保育担い手)派遣

【概要】

行政、男女共同参画センター、子育て支援団体等から、イベント・講座時の一時保育の依頼があった際、保育者(保育担い手)を派遣し、そこに参加する子どもとともに、「子どもの人権」を大切にす
る保育を実施する。

【今年度事業内容】

- ・「保育担い手」の派遣件数。延べ166件
- ・主な派遣依頼者一覧(順不同)
NPO法人多言語広場CELULAS(セルラス)
クレオ大阪中央
クレオ大阪南
クレオ大阪北
ハミングバード
阿倍野区保健福祉センター
関西リープス
公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構
守口市教育委員会
守口市教職員組合
大阪公共サービス政策センター
大阪市教育委員会
大阪市職員労働組合
大阪市立大学女性研究者支援室
大阪府教職員組合
大阪府人権協会
大東市
中央区PTA協議会
中央区役所市民協働課
日本NPOセンター
日本動物看護職学会
日本動物看護職協会
八尾市教職員組合
部落解放同盟
その他
- ・「保育部ももぐみ」リーフレットの作成

(2) 保育担い手育成講座

【概要】

「子どもの人権」を大切にする保育の理念を広め、実際に保育を担う担い手を養成する。

【今年度事業内容】

- ・「保育担い手」養成講座の開催なし。
- ・「保育担い手」現任研修の実施。
プログラム：「アレルギー対策と事故予防講座」
日時：7/13(日)
場所：HRCビル4階研修室
内容：安心安全に保育をするための研修として、アレルギー対策と事故予防について看護師さんから学ぶ。

2. 書籍の編集業務受託

【自治労中央本部からの業務委託】『自治労の保育運動』編集
年2号(No.30号7月、No.31号11月)の発行。

3. 子どもの権利条約教材作成

【概要】

当センター開発の「子どもの権利条約スタンプラリー」等を活用し、子どもの権利条約普及のための事業をおこなう。

【今年度事業内容】

- 子どもの権利スタンプラリーの実施
 - ・実施件数：10件
 - ・参加人数：子ども：731人、おとな482人 計1,213人
- ※公立小学校の授業での実施含む